

令和4年8月1日

## 第75回秋季岐阜県高等学校野球大会新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン

(一財) 岐阜県高等学校野球連盟

### 1. 基本方針

秋季県高等学校野球大会主催者（以下「主催者」といいます）は、第95回選抜高等学校野球大会の出場に変重要な試合となる秋季東海地区高等学校野球大会へ出場する3校を選出するための大会として開催し、以下を基本として新型コロナウイルス感染防止対策（以下、単に「対策」ということがあります）を講じる。

- (1) 岐阜県、後援各市町の行政からの方針、対応
- (2) 他団体の示す各種ガイドライン、対応マニュアル
- (3) これまで開催してきた全国高等学校野球選手権大会、選抜高等学校野球大会ならびに各都道府県高等学校野球連盟が主催した各種大会の経験、実績上記(1)から(3)を踏まえて主催者は以下①から⑦の項目を実践する。
  - ① 3つの密（密閉、密集、密接）を徹底的に回避する。
  - ② 大会関係者、チーム関係者に対して毎日の検温および体調チェックを実施する。
  - ③ こまめに手洗い、手指消毒を行い、咳エチケットを徹底する。
  - ④ 本ガイドラインにおいて、特段の定めがない限りマスク着用を行う。
  - ⑤ 大会関係者、チーム関係者は当該地方大会開幕の2週間前から健康チェックシート（様式A）、行動歴記録表（様式B）を記入し感染者が発生した場合に備える。
  - ⑥ 主催者は事前に大会開催計画、方針について、行政や当該衛生部局とあらかじめ協議し、不測の事態に備える。
  - ⑦ 関係者（大会関係者、参加校関係者、観客）から感染の有無について出来る限り情報を収集し、効果について検証するよう努める。

### 2. 観客の入場について

主催者は、観客の入場について、地域の感染状況を踏まえ、本ガイドラインのほか当該行政が定めるイベント開催に関する事項を遵守することを条件とする。観客収容の上限は当該行政が定める上限人数と球場収容率の定めにしたがい、主催者で決定する。また、大会期間中に行政の指針が変更された場合、上限人数を変更することも可とする。

なお、当初定めた方針を大会中に変更する場合も同様に、毎日新聞岐阜支局・日本高等学校野球連盟へ報告することとする。

### 3. 主催者としての対策

#### <事前>

- (1) 大会関連行事（理事会・抽選会など各種会議）はリモートでの実施も検討し対策を講じる。
- (2) 抽選会、開会式は全校、全員参加とする場合は3つの密を回避して実施する。全校、全員での参加を実施しない場合、代表参加やリモートなども可とする。

#### <大会中 ～全般～>

- (1) 球場内、外に消毒液を設置し、手指消毒を励行する。
- (2) ダッグアウト周辺およびトイレはこまめに消毒する。

#### <大会中 ～観客へ向けてのアナウンス、ビジョン表示～>

- (1) 大声を出さない、マスク着用、ソーシャルディスタンスを取るなど新型コロナウイルス感染拡大予防対策を促すアナウンス、ビジョン表示を行う。
- (2) 観戦終了後に自分の座席位置を確認できるよう入場券に自身の座席番号をメモすることやスマートフォンで座席位置を撮影することを促し、最低14日間は自身の座席番号が確認できるようアナウンスする。
- (3) 接触確認アプリ（COCOA）などのインストール、活用を促す。
- (4) 観客が感染者となった場合に備え、大会中は大会本部、大会後は当該都道府県高等学校野球連盟事務局まで電話連絡を入れてもらうよう促す。

### 4. 参加校の対策

#### <移動>

- (1) 試合会場へ移動の際はマスクを着用し、会話を控え、手指消毒を励行する。
- (2) バスで移動する場合、適宜換気を行い、人と人との間隔を空けて座ることとする。公共交通機関の場合は混み合う時間帯をなるべく避けるよう注意する。
- (3) 移動中や試合会場で食事を行う場合は、黙食とし、人と人との間隔を空け、対面になることを避ける。
- (4) 宿泊は極力控えることとし、やむを得ず宿泊する場合も3密回避やマスク着用など感染対策を講じる。その場合、不要不急の外出は行わず、外部との接触は極力避ける。

#### <球場入場時>

- (1) チーム関係者は起床後検温、体調チェックを行い、その結果を責任教師は健康チェックシート（様式A）に記載したうえ、球場到着後、大会役員へ提出する。起床後あるいは球場入場時に37.5℃以上の発熱や体調不良（倦怠感、息苦しさ

等) が発生した場合は、球場への来場、入場することを禁止し速やかに医療機関を受診する。その場合、責任教師は速やかに大会本部まで連絡する。

#### < 試合に関して >

- (1) 球場内には消毒液を設置してあるので、適宜手指消毒を励行する。
- (2) ウォーミングアップ時、選手のマスク着用は義務付けない。ただ、球場外でウォーミングアップをする場合、観客近くで行うこともあるため、マスク着用をすることが望ましい。
- (3) 試合開始前、終了時に整列する際、選手は手を腰に当てて、隣の選手とぶつからない程度の距離を空けて挨拶を行う。試合終了後の校歌斉唱時も同様とする。なお、相手チームと握手などは行わないようにする。
- (4) 円陣を組む時など密集にならないよう注意し、一定の距離を保つ。また試合中、マウンド上で集合する際はグラブを口に当てることとする。
- (5) 試合中、素手によるハイタッチや握手を控えることとし、自身の目、鼻、口なども触らないようにする。
- (6) ダッグアウト内では密集にならないよう、出来る限り人と人との距離を一定間隔に保ち、ペットボトルやコップなどの共用は避ける。
- (7) 試合中、ダッグアウト内の責任教師、監督、選手、記録員ならびにボールボーイは熱中症対策を十分に講じてマスク着用をする。グラウンドでプレーしている選手は、マスクの着用は義務付けない（ベースコーチを含む）。
- (8) チームの共用用具として考えられるもの（バット、ヘルメットなど）に関しては、こまめに消毒を励行する。

#### < 試合後 >

- (1) 大声での校歌斉唱は控える。
- (2) 次の試合の出場チームとの入れ替え時における接触を避けるため、速やかにダッグアウトを空ける。（勝利チームのグラウンド整備は無しとする。）
- (3) 大会役員の誘導により定められた動線にしたがい必要に応じて取材対応を行う。
- (4) 取材終了後、速やかに帰校あるいは帰宅する。

### 5. 大会関係者（役員、運営委員、審判委員、スタッフ）

#### < 移動 >

- (1) 移動の際はマスクを着用する。公共交通機関を使用する場合は、混み合う時間帯をなるべく避けるよう注意する。

< 球場入場時、球場内 >

- (1) 起床後検温、体調確認を行う。その際、37.5℃以上の発熱や体調不良（倦怠感、息苦しさ等）が発生した場合、来場は禁止する。また、球場入場時にも37.5℃以上の発熱や体調不良のある場合は、球場への入場を禁止する。
- (2) 球場内、外に設置する消毒液でこまめに手指消毒を励行する。
- (3) 球場内は常にマスクを着用する。
- (4) 球場内で食事を行う場合は、黙食とし、人と人との間隔を空け、対面になることを避ける。

< 審判委員 >

- (1) 球審は試合中、マスク着用かマスクシールドを使用することとする。なお、塁審のマスク着用は義務付けない。

6. 一般入場者、学校応援者について

【一般入場者、学校応援者共通】

< 入場制限 >

主催者は、次に該当する方の球場への入場を禁止する。なお、入場制限に関して事前にホームページなどで周知し、特に以下(3)～(5)の該当者については自己申告を促すよう努める。

- (1) 球場入場時サーモグラフィー、非接触型検温器で検温を実施し、37.5℃以上の発熱が認められた方
- (2) マスク非着用の方
- (3) 過去72時間（3日間）以内から現在までに発熱、咽頭痛、呼吸器症状、倦怠感、頭痛、消化器症状、鼻汁、味覚異常等を含む体調不良のある方
- (4) PCR等検査陽性歴がある者のうち行動制限の解除がされていない方
- (5) 濃厚接触者等として行動制限の解除がされていない方

< 球場入場時 >

- (1) 入場する際は接触確認アプリ（COCOや当該行政アプリなど）のインストールを促す。
- (2) 一般入場者が接触確認アプリに登録していない場合、入場者に氏名、連絡先等を記入する来場者カードの記載を求める。

< 観戦中 >

- (1) 大声を出して声援を送る、合唱することは控える。
- (2) ハイタッチや得点時に座席の上に立つ、1ヶ所に集まる行為は控える。

- (3) マスクの着用、咳エチケットを遵守し、球場内設置の消毒液で手指消毒を励行する。
- (4) ソーシャルディスタンスをとって観戦する。
- (5) 座席位置の記録徹底の呼びかけを行う。有観客試合で開催することにしても、自由席が想定されるため、ゾーニング（ネット裏、1 塁側、3 塁側、外野などローピング）を行うことが望ましく、観戦者には席や座席番号をスマートフォン等でカメラ撮影し記録することを促す。あるいは、入場券に座席番号を記入し、自分の座席位置を確認できるよう、入場券を最低14日間保管するよう促す。
- (6) 着席後、球場内は目的地（トイレ、売店など）を決めて移動することとし、球場内の不必要な回遊を避けるよう求める。

### 【学校応援者】

#### < 人数 >

- (1) 当該校責任教師（責任教師以外でも可）は当日の学校応援者名簿（様式C）で入場者を把握する。主催者が必要に応じて提出を求めることもある。

#### < 移動 >

- (1) 来場の際、移動中はマスクを着用し、手指消毒を励行する。
- (2) バスの移動では適宜換気を行い、人と人との間隔を空けて座ることとする。公共交通機関の場合は混み合う時間帯をなるべく避けるよう注意する。
- (3) 移動時や球場内、外で食事を行う場合は、黙食とし、人と人との間隔を空け、対面になることを避ける。

#### < 観戦中 >

- (1) ブラスバンドの入場に関しては、別に定める「ブラスバンド入場に関するガイドライン」を遵守することを条件とし、当該都道府県の感染状況に応じて各主催者で判断することとする。
- (2) 応援に関しては、大声を発する応援は行わず拍手、声援での応援を基本とする。なお、球場内へメガホンの持ち込みは可能であるが使用する際は声を出さず叩くのみとする。また、太鼓の持ち込みは1個までとする。  
応援リーダー、チアリーダーについても入場は可とし、ソーシャルディスタンスをとることや大声を発しないなど、本ガイドライン遵守する。

## 7. メディア関係者

- (1) 球場での取材要員数は必要最低限にとどめるよう各メディアに要請し、協力を求める。具体的な人数制限について記者クラブ等で同意が可能な場合は実施を求め

る。

- (2) 地方大会開催日ごとに球場で取材する記者のリストの作成と保管を各メディアに求め、必要ある場合は提出してもらう。
- (3) 入場時にサーモグラフィーなどによる検温が可能な場合は実施する。入場時検温ができない場合は起床後の検温、体調確認を求める。いずれの検温時にも37.5℃以上の発熱や体調不良、倦怠感、息苦しさなどが発生した場合、入場あるいは来場を控えるよう求める。
- (4) 球場内、外に設置する消毒液でこまめに手指消毒するよう求める。
- (5) 球場内は常にマスク着用を求める。
- (6) 記者室での3つの密を避け、スタンドでの分散取材、球場内の移動は必要最低限にとどめるよう求める。
- (7) 取材は3つの密を避けるよう要請する。特に選手らチーム関係者への取材は距離(できるだけ2m、最低でも1m)を置いて実施し、時間制限する。保護者らスタンド席の観客への取材もできるだけ控えるよう求める。
- (8) 記者証などを複数で共有する場合は各メディアにおいて消毒など感染防止対策の徹底を求める。
- (9) 球場内で食事を行う場合は、黙食とし、人と人との間隔を空け、対面になることを避けるよう求める。

#### 8. 感染者が発生した場合の対応

##### 【一般入場者、学校応援者】

- (1) 球場で観戦後、14日以内に感染者となった場合、大会中であれば大会本部、大会後であれば当該都道府県高校野球連盟事務局まで連絡をしてもらう。
- (2) 主催者は試合会場となる球場とも情報共有し、保健所の指示に従い、ホームページで感染者発生の情報発信や周辺座席で観戦した観客への連絡など然るべき措置をとる。

#### 9. 参加校の大会参加可否の判断基準

- (1) 大会中、参加校から感染者ならびに感染の疑われる者(濃厚接触者)が判明した場合、主催者は参加校責任教師から情報収集(感染者数、行動歴、保健所の指示内容)に努める。
- (2) 当該校は感染者、感染が疑われる者の人数や行動歴、保健所の指示を踏まえ、当該校校長が参加の可否を判断する。
- (3) 主催者は参加校校長の判断を尊重し対応する。しかし、当該校の感染状況(部内での集団感染や集団感染が予見されるなど)によっては出場を差し止めることも

ある。

(4) なお、参加校から感染者や感染が疑われる者が発生した場合、大会日程を繰り下げることによって当該校の大会出場が可能な場合は主催者で検討することもある。その場合、同一回戦の日程内で日程変更を検討することを原則とする。

#### 10. 選手変更

- (1) 大会前、大会中に感染者、感染が疑われる者が発生した場合の選手登録変更については、当該試合の開始前まで変更可とする。
- (2) 上記10. (1)によって、一旦選手登録を変更した選手でも、診断書等により再度登録することも可とする。ただし、再登録をする場合は当該選手に代わって入った選手のみ入れ替えの対象とする。

#### 11. 大会終了後の健康観察

大会関係者、参加校チーム関係者は大会を終えた後、14日間以内に新型コロナウイルスに感染した場合、あるいは感染が疑われた場合は速やかに当該都道府県高校野球連盟に書面または電話にて報告する。

本ガイドラインは令和4年8月1日時点のものであり、今後の感染状況や政府行政からの指針をもとに変更する場合がある。

なお、本ガイドラインに記載されていない事象や不測の事態が発生した場合、当該大会主催者と毎日新聞岐阜支局が連携のうえ対応にあたることとする。

以上

## ブラスバンド入場に関するガイドライン

(一財) 岐阜県高等学校野球連盟

### 1. 前提

(1) ブラスバンドの入場に関して、当該地域の感染状況、行政の指針、球場関係者の意向も踏まえ、第75回秋季岐阜県高等学校野球大会の新型コロナウイルス感染防止対策ガイドラインならびに本ブラスバンド入場に関するガイドラインを遵守できる場合のみ、その可否を主催者が判断する。

### 2. ブラスバンド入場に関して

- (1) ブラスバンド入場が可能な人数は30名以内（楽器を使用し応援する生徒）を原則とする。ただし、球場ごとに収容人数が異なるため、演奏者は隣の演奏者との距離をしっかりとって演奏すること。（前後左右の演奏者との間隔2m以上）
- (2) 参加校はブラスバンドの入場を行う場合、あらかじめ主催者へ連絡し、参加校、主催者で情報共有する。
- (3) 当該高校野球連盟はブラスバンド入場場所に関して、スタンド内をゾーニングしたうえで、隣の演奏者と2m、前後の演奏者と2mは必ずソーシャルディスタンスを取ることにする。また、対面を避け、横並びで演奏する。
- (4) 楽器の特性から特にフルート、ピッコロ、クラリネット、トロンボーンは他楽器の奏者との距離を十分に空けるよう留意する。
- (5) 結露水は十分に注意して処理する。各自タオルを持参し、常にタオル専用袋を用意して厳重に管理する。処理する際は、楽器にタオルを近づけて行い、周囲に飛沫が飛ぶことを防ぐ。
- (6) マウスピースのみを使用して音出しを行う際は、マウスピースの先端付近にタオルを近づけ、周囲に飛沫が飛ぶことを防ぐ。
- (7) 譜面、譜面台、打楽器のスティック等の道具は共有せず、個人管理とする。
- (8) 楽器を使用したアクションは行わず、常に座って正面を向いて演奏する。
- (9) 万が一、ブラスバンド部員が球場来場から14日以内に感染が判明した場合は、速やかに主催者に連絡をしてもらう。

以上